

自己点検・自己評価

2026年4月1日

玉川国際学院

5: 達成している 4: ほぼ達成している 3: どちらともいえない 2: 取り組みを検討中 1: 改善が必要

1. 教育の理念・目標	評価
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	5
1-2 学校の特色は明確か	5
1-3 理念に基づく教育が行われているか	5

<現状と課題>

本学は、外国人に対する日本語教育を行い、異文化の交流、相互理解を促進し、もって国際社会の平和的な発展に寄与することを目的としている。この社会的使命を達成するため、本学における教育活動等の状況について、自ら点検・及び評価を行うものとする。

各国からの留学生を受け入れるにあたり、日本語能力の向上のみならず、教養ある人格者を育成するという理念を、教職員一同が共有しており、この理念の実現に向け日々全力を尽くしている。通常の授業に加え、定期的な「生活指導」、「進路指導」等を通じて、教員と学生とのコミュニケーションを大切にしている点が、本校の特徴である。

グローバル化が進む今日だからこそ、世界各国の文化だけでなく、日本文化の伝達にも力を入れており、日本の歴史や伝統に含まれるであろう知恵を身体で習得させることを重要な課題としている。

2. 学校運営	評価
2-1 運営方針は定められているか	5
2-2 運営方針に沿った事業計画は定められているか	5
2-3 運営組織や意思決定機構は有効に機能しているか	4
2-4 危機管理体制は整備されているか	4
2-5 教育目標達成に必要な教員の知識、能力や資質が明示されているか	5

<現状と課題>

学校設置者、校長、主任教員及び教員は、「日本語教育機関の運営に関する基準」に定められた要件を満たしており、学校運営に必要な組織体制を整備している。また、学生支援や教育活動を円滑に進めるため、事務局には多言語で対応可能な職員を配置し、留学生へのきめ細かな支援を行っている。教職員の役割分担や責任範囲を明確にするとともに、定期的な会議や研修を実施し、情報共有や業務改善に努めている。非常勤講師に対しても必要な情報を適時共有し、教育の質の維持を図っている。

在留資格手続きについては、申請取次資格を有する担当者を配置し、関係法令に基づき適切かつ迅速に対応している。学生の安全管理については、防災訓練を継続的に実施するとともに、防災ハンドブックの配布や安否確認システムの活用により、災害発生時にも迅速に対応できる体制を維持

している。また、警察や地域関係機関と連携した防犯講習を実施し、学生の防犯意識や安全意識の向上に取り組んでいる。健康管理の面では、

留学生全員に国民健康保険への加入を徹底するとともに、感染症発生時の対応手順や関係医療機関との連携体制を教職員間で共有している。さらに、学生の生活相談や健康相談にも随時対応し、安心して学習できる環境づくりを推進している。

3. 教職員	評価
3-1 教育理念・目的が教職員間で共有されているか	4
3-2 教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	5
3-3 教職員評価が行われているか	4

<現状と課題>

学生の日本語能力の向上に加え、日本文化や生活習慣への理解を深め、日本社会に適応できる人材の育成を目標としている。授業では、学生が主体的に学べるよう工夫し、多様な教材やICT教材も活用しながら、学習意欲の向上に努めている。

教育の質を向上するため、定期的に教員会議を開催し、授業運営や学生指導について情報共有を行っている。また、教員相互の授業参観や意見交換を通じて授業改善を図るとともに、成績評価基準についても教員間で共通理解を図り、公平・適正な評価を実施している。

4. 教育活動	評価
4-1 カリキュラムは体系的に編成されているか	5
4-2 成績評価は適切に行われているか	4
4-3 各種日本語試験の合格率向上のための指導体制は整っているか	4
4-4 教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得られているか	5

<現状と課題>

学生の日本語能力や進路目標に応じたクラス編成を行い、各コースの目的に沿ったカリキュラムを実施している。授業時間や授業時数は告示基準を遵守し、学習内容や評価方法についてはオリエンテーション等を通じて学生へ周知している。定期試験に加え、JLPT、EJU模擬試験を実施し、学習成果を継続的に確認するとともに、その結果を教員間で共有し、授業改善や個別指導に活用している。

教材については、教員間で有効な教材や指導方法を共有し、ICT機器を活用した授業を積極的に取り入れている。また、学生の理解度に応じて教材や指導方法を適宜見直し、より効果的な教育の実現に努めている。

5. 学生支援	評価
5-1 進路に関する支援体制は整っているか	4
5-2 学生からの相談に乗る体制は有効に機能しているか	4

<現状と課題>

学生一人ひとりの希望や能力に応じた進路指導を行い、専門学校、大学、大学院への進学を中心に支援している。個別面談や進路ガイダンスを通じて進路意識を高めるとともに、定期試験やJLPT、

EJU模擬試験の結果を活用し、適切な進学先の提案や学習指導を行っている。担任教員は定期的な面談を実施し、学習面だけでなく生活面や進路に関する相談にもきめ細かく対応している。

また、学生寮での生活状況やアルバイト先とも必要に応じて連携し、安心して留学生活を送ることができるよう総合的な支援体制を整えている。

6. 学生の募集と受け入れ 評価

6-1 学生の受入方針は定められているか	5
----------------------	---

6-2 学生募集活動は、適正に行われているか	5
------------------------	---

6-3 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5
--------------------------------	---

<現状と課題>

教育理念及び教育目標に基づき、受入方針と年間募集計画を策定し、適正な学生募集を実施している。募集活動では、ホームページや各種広報媒体を活用し、多言語による最新情報の提供に努めている。

海外の仲介機関とは適正な業務委託契約を締結し、関係法令を遵守した募集活動を行っている。また、入学選考では提出書類の確認に加え、オンライン面接を実施し、日本留学の目的や学習意欲、日本語能力などを総合的に確認した上で、受入れの可否を判断している。

7. 在籍管理と生活指導 評価

7-1 日本在留に関する管理と指導が適切に行われているか	5
------------------------------	---

7-2 日本の法令を遵守させる取り組みが行われているか	5
-----------------------------	---

7-3 学生について常に最新情報を把握しているか	4
--------------------------	---

<現状と課題>

入学時のオリエンテーションでは、学校生活や日本での生活ルール、災害時の対応などについて説明し、法令遵守や出席管理、資格外活動に関するルールの理解を促している。出席状況に課題のある学生には、個別面談や保護者との連携を行い、継続的な指導・支援を実施している。

また、学生との定期的な面談を通じて、住所やアルバイト先など生活状況の変化を把握し、必要に応じて適切な支援を行っている。卒業後についても進学先を確認し、進路状況の把握に努めている。